



2022-2023年度  
RI会長  
ジェニファー・ジョーンズ  
RIテーマ  
IMAGINE ROTARY

国際ロータリー第 2830 地区  
**八戸北ロータリークラブ** 会報  
ガバナー ● 田中 常浩 会長 ● 佐々木 悦郎 幹事 ● 吉田 悦子 SAA ● 山内 一晃  
〒031-0081 青森県八戸市柏崎一丁目 6-6 八戸プラザホテル内  
TEL.0178(44)3121 FAX.0178(44)3128 https://8kitarc.com/  
例会日：毎週火曜日 12:30 開会

8月 会員増強・新クラブ結成推進月間

vol. 6

第 2492 回例会 2022.8.9

12:30 ~ 八戸プラザホテル (お弁当持ち帰り)  
司会：神山智子副SAA

RIテーマ  
点鐘

- ・ロータリーソング
- ・クラブソング
- ・四つのテスト

誕生日祝い



源新和彦会員



小林弘文会員

記念日



類家 順会員

ゲストの紹介

八戸学院大学健康医療学部人間健康学科  
准教授 佐藤千恵子先生

会長要件

佐々木悦郎会長



8月は会員増強月間です。ロータリーに限らず各種団体は会員減少問題に直面していると思います。今はネットでのコミュニケーションが闊達になされ、今日の例会もハイブリッド例会ですし、色んな手段でコミュニケーションがとれる時代です。会員増強の考え方として、例会に来ると直接あの人に会えるとか、個人の魅力、個々として団体としての見える形での奉仕活動を通

じて、会員増強・退会防止のキーワードに迫っているのではないかなと思っております。

この様に人と人が直接触れ合えるということでは、子ども食堂の活動も似ているのかなと思います。佐藤先生の卓話は2回目、より深く地域の課題やクラブとしての奉仕活動の可能性などを皆さんと一緒に勉強して実行に移していきたいと思っております。

最後に、光星高校、甲子園1回戦突破おめでとうございます。2回戦は愛工大名電。「イチロー」の出身校、強い所ですね。選手が全力でプレーできることをお祈りしております。

幹事報告

佐々木悦郎会長

◎八戸北RC、2830地区テレビCM

8月10日 朝日放送 15:30 ~

◎例会終了後理事役員会

親睦委員会

中山恵美子会員

ニコニコBOX

佐々木悦郎会長：佐藤先生本日はお越しいただきありがとうございます。

源新和彦会員：お誕生日祝い、ありがとうございます。

源新育子会員：佐藤先生、本日は宜しく願いたします。

小林弘文会員：55歳になります。ありがとうございます。

久保隆明会員：佐藤先生、宜しく願いたします。

類家 順会員：結婚祝いありがとうございます。

類家 順会員：佐藤先生ようこそ。よろしく願いたします。

田村隆直会員：佐藤先生、本日はよろしく願

いたします。

### 米山記念奨学金

千葉清彦会員：

奥寺良之会員：

澤口忠彦会員：

小野晶子会員：

### ポリオ・プラス

奥寺良之会員：

中山恵美子会員：

## 出席報告

田村隆直会員



本日の出席率 72.97%

前々回(7/26)の修正出席率 62.16%

## 卓話「コロナ禍での子ども食堂」

類家 順委員長



本日は佐藤先生にお越し頂いております。貴重なお話を聞けると思います。早速、佐藤先生お願いいたします。



佐藤千恵子先生

大学では公衆栄養と食育を専門に担当しております。子ども食堂を起ち上げて今年で5年目になりました。今回は2回目ですけれど、県内の子ども食堂の現状についてお話させていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

青森県の子どもの生活実態調査結果があります。2018年に県のこどもみらい課が実施しました。小学5年生と中学2年生とその保護者5,187世帯10,374人を対象としたものです。県内の困窮家庭は13.2%で約1400人ぐらいおります。周辺家庭、それらしい人が18.2%で約1900人で、合わせますと3割強ぐらいの方が困窮家庭ではないかと把握しております。

貧困には、絶対的貧困層と相対的貧困層がありまして、絶対的貧困層はお金がない、病院に行けない、



食べるものがないなど見た目から判断できる人たちで、相対的貧困層は外見からは判断できません。

青森県は高校卒業後の就職率が一番高い県です。それを非難するわけではなく本人の選択なんです。その中にある一定数、経済的な理由で進学したくても出来ない子どももいるわけです。子どもたちに手を挙げていただければ、私どもとしては色んな援助があるわけですが、自分の家庭環境を自分で判断して大学進学をあきらめる、そういう子ども達がすごく多いです。とても残念な結果だと思います。

現在のような長い休みだと給食がないので、お腹を空かせている子もいるかもしれません。保護者は困ったときに相談相手がない方も多いというデータも出ています。また、経済的理由で食糧が買えなかったり、病気がちだったとしても病院へ行くこともできないケースもあります。仕事も非正規雇用の方が多く、休日出勤や夜勤が多く、子どもたちとのコミュニケーションをとれない状況もあります。

国は2014年に子どもの貧困対策推進法を制定しました。いろんな支援策を推し進めていますが、外国から見たらとても遅い状況です。

子ども食堂=貧困というイメージは、マスコミがつくり上げたもので、実際は子どもが一人でも安心して来れる場所、「地域の居場所づくり」を目指しています。家族以外の人と夏祭りや流しそうめんをやったりします。子どもの中にはお誕生日会をやってもらったことがないという子もいます。鍋とか大人数での会食の機会がない、そういうご家庭の方々にクリスマス会やお正月の餅つきなどを楽しんでいただける場所をこちらでセッティングして地域の居場所づくりを目指しています。

家族以外の人と交流を結べる共生型を目指し、その一方で困窮家庭を対象としたケア型の子ども食堂も、県内では青森に1か所と弘前に1か所の2か所しかありません。あとはほとんど共生型の子ども食堂を展開しています。

私はゼミナール活動の一貫として学生と一緒に2016年11月に八戸で初めての子ども食堂を開設しま

した。一緒に作って食べるという共食の場として、対象者を貧困に限定せず、大人でも子供でも誰でも参加できる場所にしたいと考えました。

学生たちにとっても初めての試みでして、学生の中にも親以外の大人の人と初めて話をした子もいたので、私自身もびっくりしました。挨拶から指導していき、現在はこの活動がきっかけで就職につながり働いているといった効果もありました。

子ども食堂は現在、全国に6000ヶ所以上あります。起ち上げた当時は首都圏を中心に300ヶ所くらいしかなく、今や20倍以上まで広がりました。無料、もしくは低価格で食事を提供し、ほとんどがボランティア活動です。財源の食材は地域の方たちからの寄付や、各団体からの助成金で運営しています。特にコロナ禍の現状では、国をはじめ、赤い羽根共同募金会、各企業の公募によりご支援いただいております。

最近では高齢者の一人暮らしも多くなってきましたので、子どもに限らず、親子に限らず、高齢者の方たちもおいでになっているところもあります。ボランティアで参加してくれる方もいらっしやいます。

県内の状況はといいますと、5年前は弘前に2か所、八戸が三番手で3か所しかなかったのですが、現在は50か所以上に広がっています。

青森県社会福祉協議会の「みんなの居場所」に登録されているのは37か所くらいです。登録すると助成金の公募のお知らせとか集客方法とか課題等についての相談ののってくれます。八戸市内には私の所を含めて8か所あります。それぞれが特徴のある取り組みをしていて、同じ内容のものはありません。みんな違う取り組みをしています。

青森県内に小学校は263校あります。子ども食堂は50か所しかなく、まだまだ不足しているのが現状です。そこで、県のこどもみらい課、青森県社会福祉協議会が中心になって、「居場所づくり推進事業」を展開しているところです。5年かけてやっと自治体主導の子ども食堂もできてきました。

実際に起ち上げる時には、2012年に国が対策推進法を起ち上げる前にすでに起ち上げた方がいらっしやったので、その方の所を見学に行きました。宮城県や岩手県で、すでに活動されている所をボランティアを兼ねて学生と一緒に見学に行きました。ただ作って食べればいいと簡単に考えていても、子ども相手だったり、困りごとを抱えている親子がいるわけですから、そういう時は自治体や関係部署のどこに繋げてあげるか、その知識も必要ですし、やは

り人脈も必要です。そういうことを学ぶためにも体験は必要だと思います。ぜひ皆さんもお近くの子ども食堂で体験してみてください。

仙台市のドリーム子ども食堂の代表の方はシングルマザーでして、ご自身が働いているときに自分の子どもたちをお友達に看てもらったことがあったそうです。現在はお仕事を辞めて、学童保育の現場にいらっしやるんですけど、「自分が助けていただいたので、今度は働く女性を支援したい。」という思いで月に1度開設しています。学童を利用していない子ども受け入れています。

私たちは大学のゼミの一環としてこの活動を行ってきましたが、卒業する学生と相談して、せつかく継続してきた活動を市民の方に継いでもらえないだろうかという思いでシンポジウムを開きました。その時に手を挙げてくれたのが、八戸グリーンハイツさんでした。開設前に地域の民生委員に相談して、3ヶ月かかって地域交流施設「みんなの食堂」ができました。起ち上げたら高齢者の食堂になりました。第1週目は会食、第2週目は体操、第3週はコーラスをしたり、第4週目は語り部をしたりしました。残念ながら今コロナで休業中です。

一方で、感染対策を徹底して2021年5月、東北町に青森原燃テクノロジーセンターの研修施設を改修して、「みんなの食堂」が開設されました。東北町の周りに子どもが集まる場所がないので、月に1回ですが、地域貢献事業として喜ばれております。午前中に工作や紙芝居などを行い、お昼は社員食堂のプロの方がお子様ランチなどの子どもの喜びそうなものを作ってくれます。職員の方も野球教室を企画したり、意欲まんまんの所です。

2019年5月から「子ども食堂」の一環として、乳幼児対象の離乳教室「ふるふる」を開設しました。きっかけは八戸市が県内で最も子どもの虐待問題が多いからです。社会的に妊娠して出産しても、家族の応援を得られないという人達が多くて、どうしても密室子育てになりがちです。子育てを経験した女性であれば、そういう時はすごく泣きたくなったり精神的に不安定になったりするのは理解できるので、なんとかお手伝いをしたいと思い開設しました。

コロナ禍で休業していましたが、昨年10月から再開し、会食をせずにベビービクスとか絵本の読み聞かせとか、離乳食の悩み事の相談ののったりなどしています。再開して思った事は毎回限定10組なのですが、皆さん集まって他の人とお話をしたい、ただそれだけなんです。そして帰りには笑顔で帰っ

ていきます。

早くから自治体主体で取り組んでいる兵庫県明石市は、人口が30万人で毎年人口が増えています。子育てがしやすい環境なんだと思います。離婚すると誓約書があって、面会とか養育費の規約が書いてあって、それにサインしないと離婚できないそうです。妊婦さん全員と面談をして、困りごとがあれば早期に支援したり、中学生までの医療費を無料にしたり、第二子以降の保育料も無料になっています。

子ども食堂は小学校の学区に1つを目指しており、ホテルが主体の子ども食堂や、ライオンズクラブさん独自の子ども食堂もありました。運営者は一般市民で運営費は明石市が出しています。開設するのに準備資金として5万円、毎月子ども食堂を実施するのに2万円支給されます。これにより何の心配もなく、公募で募って子ども食堂を周知拡大できています。

コロナ禍で8ヶ所の子ども食堂が休業中です。せっかくの活動が立ち消えそうなので、青森県の社会福祉協議会が中心になって「子ども宅食すこやか便」を実施しています。生活困窮者限定の取り組みで2ヶ月に1回、県社協から運営団体の方に届く食材や地域から寄付された物資を希望者に配ります。あとは子ども食堂バスを活用したキャラバンも実施しています。県のこどもみらい課の委託事業として、子ども食堂が近くにないけど体験したい方達に向けて取り組みを行っています。さらに「子どもの居場所づくりネットワークミーティング」を開催し、各地域の取り組み紹介や課題について話し合ったりしています。

八戸グリーンハイツさんの「子ども宅食すこやか便」は人数を限定していないので、朝10時から配りますが、早い人は8時半くらいから並ばれています。100人くらい並ばれますが、必ずしも全員に配られるわけではなく渡せないケースもあります。事前申し込み券を配ってのお渡しや、それでも申し込みが多いところは抽選などでお配りしていま

す。生活困窮者限定なので車や移動方法がない方でも申し込んでいただければご自宅まで食材を届けたりもしています。

以前、高校生からも子ども食堂を立ち上げたいという相談がありました。やる気があれば年代に応じた子ども食堂の開設は可能です。コロナの影響でまだ開設はできていませんが、「子ども宅食すこやか便」を実施している7ヶ所のどこかでボランティア活動を行ってもらっています。

子ども食堂の周知拡大を目的に学童保育施設にも出かけています。ゼミ生との取り組みで各企業から食材（お米、カレー、お菓子など）が届きますので、それを持って学童保育を訪問します。子ども達も喜んでくれています。

最後に、ロータリークラブさんへのご提案させていただきます。

まず1つはロータリークラブさんご自身で、地域に貢献する取り組みということで、独自の子ども食堂を開設してはいかがですか、という提案をさせていただきました。最初は月1回にこだわらず、夏休みや冬休みに実施して回数を重ねていき、それから月1回の実施にしていった市町村もあります。

2つ目は子ども食堂は難しいというのであれば、子ども宅食すこやか便に参加してもらいたいと思います。各企業で余ったお歳暮やお中元の品や家庭で余った食材などを募集して、2ヶ月に1回の子ども宅食の時に一緒に配布するのでもよろしいのではないのでしょうか。

3つ目は従来通り、市内8ヶ所への寄贈、及びボランティア活動への支援もあります。

いずれにしても、継続した取り組みをお願いしたいと思いますので、ぜひご検討いただきましてご支援の方よろしく願いいたします。

ご清聴ありがとうございました。

点鐘